

耳鼻咽喉科学

1 構成員

	平成21年3月31日現在
教授	1人
准教授	1人
講師（うち病院籍）	1人（1人）
助教（うち病院籍）	5人（3人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	4人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	2人（0人）
研究生	1人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	3人
合 計	19人

2 教員の異動状況

- 峯田 周幸（教授）（H15. 5. 1～現職）
 水田 邦博（准教授）（H15. 11. 1～19. 3. 31 助教授；19. 4. 1～現職）
 橋本 泰幸（講師）（H20. 11. 1～現職）
 細川 誠二（助教）（H16. 4. 1～19. 3. 31助手；19. 4. 1～現職）
 竹下 有（助教）（H18. 7. 1～19. 3. 31助手；19. 4. 1～現職）
 足守 直樹（助教）（H20. 12. 1～現職）
 姜 洪仁（助教）（H19. 4. 1～現職）
 大和谷 崇（助教）（H16. 3. 1～19. 3. 31助手；19. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	13編（7編）
そのインパクトファクターの合計	13.95
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0

(4) 著書数 (うち邦文のもの)	5編 (5編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	1編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.58

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Arai M, Mizuta K, Sato A, Hashimoto Y, Iwasaki S, Watanabe T, Mineta H: Localization of megalin in rat vestibular dark cells and endolymphatic sac epithelial cells. Acta Otolaryngol 128(6): 627-33, 2008
2. Yamatodani T, Ekblad L, Kjellen E, Johnsson A, Mineta H, Wennerberg J: Epidermal growth factor receptor status and persistent activation of Akt and p44/42 MAPK pathways correlate with the effect of cetuximab in head and neck and colon cancer cell lines. J Cancer Res Clin Oncol : 135(3): 395-402, 2009
3. 細川誠二, 岡村純, 望月大極, 名倉三津佳, 峯田周幸: 異所性甲状腺の1例. 頭頸部外科18(1): 65-69, 2008
4. 細川誠二, 水田邦博, 峯田周幸: 外耳道癌の臨床的検討. 耳鼻臨床 101(11): 845-848, 2008.
5. 細川誠二, 望月大極, 岡村純, 瀧澤義徳, 大和谷崇, 竹下有, 峯田周幸: 頭頸部原発腺様嚢胞癌の臨床的検討. 頭頸部癌34(4): 578-581, 2008.
6. 中西啓, 荒井真木, 細川誠二, 岩崎聡, 水田邦博, 峯田周幸: Lemierre 症候群例. 耳鼻臨床101(6): 473-477, 2008.
7. 山元理恵子, 細川誠二, 大和谷崇, 森田祥, 岡村純, 峯田周幸: 頭頸部神経内分泌小細胞癌8症例の臨床病理学的検討. 日耳鼻111(7): 517-522, 2008.
8. 神田和可子, 細川誠二, 山元理恵子, 岡村純, 土屋松実, 大川靖弘, 峯田周幸: 気管支・消化管同時異物例. 耳鼻臨床101(8): 627-630, 2008.
9. 姜洪仁, 峯田周幸, 嘉島信忠: 副鼻腔粘液嚢胞に対する涙道内視鏡を用いた手術治療. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科80(11): 2008

インパクトファクターの小計 [3.349]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Li L, Kosugi I, Han GP, Kawasaki H, Arai Y, Takeshita T, Tsutsui Y: Induction of cytomegalovirus-infected labyrinthitis in newborn mice by lipopolysaccharide: a model for hearing loss in congenital CMV infection. Lab Invest. 2008 Jul; 88(7): 722-30.

インパクトファクターの小計 [4.479]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Shindo S, Ikezono T, Ishizaki M, Sekiguchi S, Mizuta K, Li L, Takumida M, Pawankar R, Yagi T: Spatiotemporal expression of cochlin in the inner ear of rats during postnatal development. Neurosci Lett.; 444(2): 148-52. 2008

2. Shimada J, Moon SK, Lee HY, Takeshita T, Pan H, Woo JI, Gellibolian R, Yamanaka N, Lim DJ.: Lysozyme M deficiency leads to an increased susceptibility to Streptococcus pneumoniae-induced otitis media. BMC Infect Dis. 2008 Oct 8;8:134.
3. Lee HY, Takeshita T, Shimada J, Akopyan A, Woo JI, Pan H, Moon SK, Andalibi A, Park RK, Kang SH, Kang SS, Gellibolian R, Lim DJ.: Induction of beta defensin 2 by NTHi requires TLR2 mediated MyD88 and IRAK-TRAF6-p38MAPK signaling pathway in human middle ear epithelial cells. BMC Infect Dis. 2008 Jun 25;8:87.

インパクトファクターの小計 [6.127]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 瀧澤義徳, 細川誠二, 峯田周幸: 非機能性副甲状腺腺嚢胞の2症例. JOHNS25(2): 263-266, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 山本清二, 渡邊高弘, 細川誠二, 竹下有, 峯田周幸, 中谷広正, 寺川進: 内視鏡観察画面の位置を教える新しい副鼻腔手術用光学式ナビゲーションの開発. 耳展51(5): 389-392, 2008.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 峯田周幸: (乳頭腫の臨床) ヒト乳頭腫ウイルスの感染と癌化メカニズム. JOHNS 24(7): 991-997, 2008
2. 峯田周幸: (新・図解説急・応急処置ガイド 救急・応急時に必ず役立つ基本手技と処置のすべて) 日常診療に必要な応急処置 めまい発作. Medical Parctice 2 臨増: 20-21, 2008
3. 峯田周幸: 耳鼻咽喉科疾患 上咽頭癌. 今日の治療指針2009
4. 峯田周幸: 外耳炎. 耳鼻咽喉科治療指針 2008
5. 水田邦博 分担: 顔面痙攣, 森山寛ら, 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針. 2008

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Hosokawa S, Takebayashi S, Mineta H, Suzuki K, Baba S: Undifferentiated Sarcoma of the maxillary sinus: Report of a rare case in an adult. Auris Nasus Larynx 36(1): 92-95, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.584]

4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (270万円)
(2) 厚生科学研究費	1件 (100万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	17件 (665万円)

(1) 文部科学省科学研究費

峯田周幸（代表者） 基盤研究（C）頭頸部癌の上皮間葉移行に関する臨床的および基礎的研究
140万円（新規）

中西 啓（代表者） 若手研究（B）アッシャー症候群本邦症例の変異解析：変異—病態スペクトラムの構築と臨床への応用 130万円（新規）

(2) 厚生科学研究費

水田邦博（分担者） 難治性疾患克服研究事業，急性高度難聴に関する調査研究，100万円（継続）代表者 慶応義塾大学 小川郁

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	5件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	12件
(6) 一般演題発表数	2件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Ashimori N, Tsurita M, Mineta H: Analysis of Fine Needle Biopsy for Malignant Lymphoma, AAO-HNSF Annual Meeting & OTO EXPO, September 2008, Chicago IL, USA
2. Yamatodani T: Epidermal growth factor receptor status and persistent activation of Akt and p44/42 MAPK pathways correlate with the effect of cetuximab in head and neck and colon cancer cell lines. 7th International Conference on Head & Neck Cancer. AHNS, 2008,

San Francisco

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

峯田周幸 第109回日本耳鼻咽喉科学会
峯田周幸 第32回日本頭頸部癌学会
峯田周幸 第56回中部地方部会連合会
水田邦博 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会
水田邦博 第18回日本耳科学会総会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

峯田周幸 日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会長
峯田周幸 日本耳鼻咽喉科学会評議員
峯田周幸 日本頭頸部学癌学会評議員
峯田周幸 日本口腔咽頭学会評議員
峯田周幸 日本鼻科学会評議員
峯田周幸 日本喉頭科学会評議員
峯田周幸 日本頭頸部外科学会評議員
峯田周幸 日本気管食道学会評議員
峯田周幸 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会評議員
峯田周幸 日本耳鼻咽喉科感染症研究会評議員
峯田周幸 耳鼻咽喉科臨床学会評議員
水田邦博 日本耳鼻咽喉科学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	2件	0件

(1) 国内の英文雑誌の編集

Auris Nasus Larynx (Editorial Board)
Japanese Journal of Clinical Oncology (Editorial Board)

9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	1件
(3) 学内共同研究	0件

(2) 国内共同研究

水田邦博 Cochlin の内耳での機能の研究, 日本医大, 平成15年～, 資料の交換, 英文誌 2 編,

10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. ヒト乳頭腫ウイルスに（HPV）による頭頸部癌発癌の分子メカニズムの解明について

頭頸部癌はヒト乳頭腫ウイルスに（HPV）による感染と因果関係が深い、といわれている。我々は臨床検体から中咽頭（特に扁桃）癌と極めて密接に関係していることを報告した。そしてHPVタイプ16が多く癌組織に発現していた。HPVが頭頸部組織に感染し、早期遺伝子E2がプロモーター領域で切断され、環状ウイルスが線状ウイルスに変化する。E2遺伝子によるE6およびE7遺伝子への抑制がとれる。そしてE6およびE7遺伝子が過剰発現することによってE6遺伝子産物はp53遺伝子に、E7遺伝子産物はRb遺伝子に結合して、それぞれの腫瘍抑制遺伝子を不活化する。これがHPVによる発癌メカニズムの一つと考えられている。そこで頭頸部癌の培養細胞に野生型E2遺伝子を導入することによって、癌細胞の消退あるいは増殖能低下を確認できるか検討した。現在、野生型E2遺伝子を遺伝子導入をおこなっている。今後アポトーシスの程度を確認する予定でいる。

また、もう一つの実験系では、E6およびE7遺伝子をRNA干渉を用いて頭頸部癌細胞の発育程度を調べている。臨床ではおおよそ20%の頭頸部癌細胞からHPVが検出されているが、p53遺伝子の発現異常とは相関はなく、PTEN（phosphatase and tensin homolog）遺伝子の不活化と密接な関係があり、学会報告した。

（峯田周幸，細川誠二）

2. めまい患者における自律神経機能の臨床的研究

本研究は、自律神経機能障害が原因と考えられる症例に対して、心電図R-R間隔の周波数スペクトル成分による変動係数、自発脳波（EEG）、加速度脈波（SDPTG）、脈波伝播速度（PWV）、血圧を用いて、安静時（臥位）、安静時（臥位）から立位後の経時的な変動ならびに安静時（臥位）から頭下位後の経時的な変動、および起立・頭下位負荷時の自律神経機能を測定し、めまいの発症にどのように関わっているのかを調べることを目的とした。

自律神経機能障害を伴っていると考えられるめまい症例に、安静時（臥位）、安静時（臥位）から立位後の経時的な変動ならびに安静時（臥位）から頭下位後の経時的な変動、および起立・頭下位負荷時の自律神経機能を測定することで、健常者で得られた自律神経機能の結果と比較することで自律神経機能がめまいの発症にどのように関わっているのかを検討した。

（峯田周幸）

3. Cochlin の内耳で局在の報告。

Cochlin の内耳蝸牛での局在を電顕で調べ、コラーゲンタイプ2と共存してきていることを明らかにした。このことよりcochlin は蝸牛の形態維持に役割があり、特に蝸牛では基底板に存在すること

から、聴覚の機械的刺激を電気信号に変換する仕組みに大きくかかわっていることが予想された。現在投稿準備中。Cochlin の変異で引き起こされる難聴DFNA9が、老人性難聴様の進行をすることから、さらに老化型マウスを用いcochlin の老化への関与を研究中。

(水田, 細川, 中西)

4. Megalin の内耳での局在の報告。

Megalin の内耳蝸牛での局在を電顕で調べ、前庭暗細胞、内リンパ囊の存在することを示し、英文誌に掲載された。Megalinは前庭暗細胞、内リンパ囊に存在し、暗細胞では、リガンド依存性のエンドサイトーシスに関わり、内リンパ囊では、圧調節のため分泌、吸収されている可能性を示した。今後メニエール病などの病態への関与に興味を持たれる。

(水田, 荒井)

5. 質量顕微鏡を用いた、内耳蛋白の解析。

内耳にはその機能を維持するため、特有の蛋白が局在している。様々な条件でそれらの変化を知ることは、まだ解明されていない病態を解く鍵となりうる。既知の蛋白が、この新型顕微鏡を用いて内耳で示されうるか、研究中である。

(水田, 瀧澤, 大和谷)

6. 難治性耳管開放症の耳管ピンによる治療。

難治性耳管開放症には良い治療法がないのが現状であるが、耳管ピンによる治療を行い著効例もみられるようになった。現在、症例の集積中。

(水田)